

氏 名	前田 晃史
学 位 の 種 類	修士 (看護学)
学 位 記 番 号	修士第 236 号
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 3 条第 1 項
学 位 授 与 年 月 日	平成 3 1 年 3 月 8 日
学 位 論 文 題 目	救急外来における高齢者患者の看護実践上の倫理的課題
審 査 委 員	主査 教授 立岡 弓子 副査 教授 相見 良成 副査 講師 荻田 美穂子

論文内容要旨

※整理番号	241	(ふりがな) 氏名	まえだ あきふみ 前田 晃史
修士論文題目	救急外来における高齢者患者の看護実践上の倫理的課題		
<p>1. 研究の目的</p> <p>本研究では、救急外来で高齢者患者に対する倫理的課題を明らかにし、今後も増加する救急外来における高齢者患者に対する看護ケアの質向上に資することを目的とする。</p> <p>2. 研究方法</p> <p>対象は、近畿圏内に所在する一次から三次救急医療を担う救命救急センターに勤務する救急経験 1 年以上、看護師経験 5 年目以上の看護師とした。調査方法は、面接法による質的記述的研究とした。分析方法は、面接内容を基に逐語録を作成し、倫理的問題についてコード化、カテゴリー化を行い、各カテゴリーについて考察した。真実性・信憑性については、メンバーチェックを行い、信憑性・真実性を高めるために分析過程において指導教員に適宜スーパーヴィジョンを受けた。</p> <p>3. 結果</p> <p>対象は、近畿圏内に所在する 3 施設の看護師 10 名より研究の承諾を受け、面接調査を行った。救急外来における高齢者の倫理的問題として、15 個のサブカテゴリー と、5 個のカテゴリーが生成された。カテゴリーは、【高齢ゆえに欠いてしまう配慮】 【認知症を理由に不適切な対応】 【高齢者への過度な救命処置】 【高齢者の救命と安全優先で損なう尊厳】 【実践できない高齢者への終末期ケア】 の 5 個が生成され、5 個の救急外来における高齢者の倫理的問題が明らかとなった。</p> <p>4. 考察</p> <p>救急外来で高齢者に対する倫理的問題が生じる原因として、第一に患者の救命を何よりも優先するという救急の特徴が、患者の尊厳を損なっても仕方がないという価値を医療者に持たせていること、第二に、高齢そのものに対する医療者の勝手な決めつけや偏見があると考えられる。</p> <p>5. 総括</p> <p>看護師は、今後ますます搬入数が増加する高齢者への理解を救急看護として深める必要がある。看護師は、倫理観を持って看護を実践する価値の重要性を認識する。そのために、倫理カンファレンスなどを定期的を開催することがのぞまれる。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200 字程度)